

JSPS Information

- ◇第3回惑星科学専門委員会議事録
- ◇日本惑星科学会第24回運営委員会（書面による）議事録
- ◇電子メールニュースレターへの投稿について
- ◇日本惑星科学会入会案内
- ◇学会誌購読申込み

◇第3回惑星科学専門委員会議事録

開催日時：1998年3月11日（水）13:30-16:00

開催場所：日本学術会議第3部会議室

出席者：中澤，水谷，北村，武田，香内，塚本，
加藤，金井（事務局）

I. 報告等

①本専門委員会の位置づけなど

今回は第17期第2回の専門委員会であるが、オブザーバーを含んだフルメンバーによる会議は今回が最初であるため、委員長より標記について説明があり、本委員会の役割は課題別研連と同じであることが確認された。又、第17期委員会の構成についても確認され、委員とオブザーバーは同等の権利（旅費請求権を除く）を有すことが了承された。

②委員の連絡先等の確認

オブザーバーを含む委員の連絡先等の確認があった。修正資料は後日委員長より各委員に送付される。

③第2回委員会の議事録紹介

第2回惑星科学専門委員会議事録（1997年12月20日開催）が配布され、紹介された。

④地球物理学研連の報告

中澤委員長より地球物理学研究連絡委員会（第

17期第1回、1998年2月16日開催）の報告があった。会議では委員会構成の確認、各種アンケートの回答、国際会議代表者派遣候補者の決定、第16期からの申し送り事項が話し合われた。この内、本専門委員会に特に関連ある事項としては、研連・専門委の活動状況に関するアンケート（議事参照）、理学総合連絡会議（議事参照）、2003年IUGG総会日本誘致がある。IUGGの候補地として、現在のところ札幌と京都があがっている。

II. 議事

①幹事等の選出

幹事および事務幹事を互選により決めることとし、協議の結果、幹事として水谷委員、事務幹事として塚本オブザーバーを選出した。

②活動方針に関するアンケートについて

第一常置委員会から標記アンケート（3月31日締め切り）に関する回答内容について審議した。回答内容は議事⑤の本委員会の活動計画とオーバーラップすることが多いため、その議事結果を委員長がとりまとめ回答することになった。アンケート回答は日本学術会議学術課に送付され、コピーを地球物理学研連に送付する。

③理学総合連絡会議について

3月24日開催の標記会議に出席する委員の選出を行った。当日、中澤委員長の都合がつかないため、水谷幹事が出席することになった。標記会議は第4部部会長が提案し、全ての研連と専門委員会に出席依頼が来ている。主な審議事項は研連のみなおし、科学研究予算の増額、国家プロジェクトの提案となっている。

④オブザーバーの旅費について

本専門委員会は年間3日程度開催予定であるが、オブザーバーの旅費等は支給する財源がない。当面は開催時期及び開催地を考慮することにより対処することになった。

⑤本委員会の活動計画

第1回専門委員会において議論された第17期以降の活動方針について委員長より説明があり、以下の計画が議論された。

・科学研究費細目にかかわって

平成10年度より科研費細目地球物理学のキーワードに惑星が加えられることになっているが、惑星科学をさらに振興するために第一段審査としてに惑星科学の専門家を加える働きかけを研連に行うことになった。関係の深い他細目についても同様に働きかける。

・国際協力対応

国内的にも国際的にも惑星科学分野の国際対応が一本化しておらず、対応する国際会議も適当なものが見つからないため、IAU, COSPAR, IUGGなどの情報収集を行うと同時に、第4部の研連・委員会の国際組織対応についての基礎資料を調査することになった。また、振興分野の国際対応の立ち上げ方法の前例についても調査を行う。

・将来計画案の策定

委員長より、惑星科学分野の研究・教育にかかわる将来計画策定は本委員会の重要な役割で

あるため、日本惑星科学会将来計画専門委員会報告を基に对外報告をまとめたかどうか、との提案があった。それうけ、北村委員より鉱物研連報告（平成9年7月5日）の内容及び提出した経緯について説明があった。武田オブザーバーより地化学研連より政府への勧告が1980年に提出されているとの発言があり、その後の経緯を調査することになった。香内オブザーバーより、日本惑星科学会将来計画委報告では複数拠点のあるネットワーク体制の研究機構が将来計画の基本になっている旨の発言があり、同様のスタイルの地球環境科学研究機構が次年度より発足予定であると報告された。北村委員より惑星科学関連のセンターでは、極地研の隕石探査部門を振替え、平成10年4月より隕石研究センターの設置が決定され、教授1、助手1の純増があった旨の報告があった。以上の情勢を踏まえながら、本委員会では、当面、宇宙研のMuses-C小惑星サンプルリターンでもちかえられる試料の分析・研究体制の支援を第一優先として对外報告の策定にはいることにした。このため、小惑星リターンサンプル分析計画の大枠策定を宇宙研に要請し、その計画案をもとに日本惑星科学会にネットワーク型研究構想の具体化をお願いする。本委員会ではこれらの資料を基にして、およそ1年半後を目標に、对外報告書をまとめることとした。

⑥今後のスケジュール

今回の専門委員会は8月初旬に開催予定である。主な議題は宇宙研と惑星科学会から提出された資料の調査と作成する对外報告書の構成の決定の予定である。

◇日本惑星科学会第24回運営委員会（書面による）議事録

開催日時：1998年3月17日～3月25日

出席者：中澤，水谷，高木，向井，山本，小林，
渡邊，林，渡部，田近，井田，杉浦，
阿部，佐々木，大谷，村江，藤原，福
岡，寺沢，香内（期間内に議決返信の
あった者を委員会出席とみなした）

議事

1. 第4期下期（1998年度）収支予算書（暫定案）
について

日本惑星科学会第8回総会で承認された第4期下期（1998年度）予算編成・執行方針に基づき，渡邊財務専門委員長から第4期下期（1998年度）収支予算書（暫定案）の提案があり，了承された。なお，この暫定予算は5月の総会で正式に承認される必要がある。

議決確認は総務専門委員長，総務専門委員（荒川）で行ったことを申し添えます。

第4期下期（1998年度）収支予算（暫定）（1998年1月1日～1998年12月31日）

I 収入の部

科目	予算額	前年度決算額	ガイドライン額・備考
会費収入	3,370,000	3,390,800	3,600,000
一般会費収入	2,346,000	2,048,800	含海外会員
学生会費収入	576,000	404,000	
賛助会費収入	700,000	700,000	
滞納分納入	302,000	238,000	702,000円のうち
当期分未収会費	△554,000	—	
学会誌出版事業費収入	65,000	64,750	70,000
講読料	65,000	64,750	個人・機関講読
広告料	0	0	
秋季講演会事業収入	340,000	336,000	350,000
予稿集頒布収入	180,000	116,000	1500*120
参加費	160,000	153,000	1000*120 + 2000*20
雑収入	0	67,000	昨年は立命館大寄付
寄付金収入	0	0	0
雑収入	151,000	187,665	100,000
受取利息	1,000	1,823	
その他の収入	150,000	185,842	学情入力是一部減
当期収入合計（A）	3,926,000	3,979,215	4,120,000
前期繰越収支差額	161,604	411,375	400,000
収入合計（B）	4,087,604	4,390,590	4,520,000

第4期下期（1998年度）収支予算（暫定）（1998年1月1日～1998年12月31日）

II 支出の部

科目	予算額	前年度決算額	ガイドライン額・備考
学会誌出版事業費	1,777,000	2,390,130	1,650,000
印刷製本費	1,500,000	1,886,300	昨年は5回分
送料運搬費	258,000	485,020	学術刊行物認可で減額
保管料	19,000	18,810	保管:委託事務
講演会事業費	676,000	569,950	750,000
合同大会共催事業費	90,000	81,300	
送料運搬費	90,000	81,300	
秋季講演会事業費	376,000	388,650	神戸大 ← 立命館大
予稿集印刷費	174,000	196,350	
会場費	0	0	会場費無料
送料運搬費	4,000	0	
消耗品費	20,000	16,300	
諸謝金	144,000	135,000	
雑費	44,000	41,000	ポスターパネル代
夏の学校補助金	100,000	100,000	
IUGG準備分担金	100,000	0	研連からの要請
管理費(委託事務関連)	1,086,000	977,666	1,300,000
業務委託費	735,000	688,349	名簿版下出力
送料運搬費	336,000	274,670	
ニュースレター送料	236,000	79,360	選挙広報など
その他送料	100,000	195,310	会費請求
雑費	15,000	14,647	コピー・通信
管理費(事務局関連費)	297,000	291,240	350,000
旅費交通費	82,000	118,480	学会受付者旅費
通信費	52,000	47,666	専用TEL・電報
送料運搬費	66,000	65,790	会誌著者分他
消耗品費	20,000	29,811	投票用紙, ファイル他
印刷製本費	59,000	18,900	連絡会news, 選挙広報
諸謝金	0	0	
諸手数料	7,000	6,593	振込手数料
負担金	6,000	4,000	学協会サポート
雑費	5,000	0	

科目	予算額	前年度決算額	ガイドライン額・備考
予備費	251,604	0	370,000
当期支出合計 (C)	4,087,604	4,228,986	4,520,000
当期収支差額 (A-C)	△161,604	△249,771	△400,000
次期繰越収支差額 (B-C)	0	161,604	0

1. 収支予算書説明

財務専門委員会が作成で、会の今年度予算額を予算科目毎に仕訳して、昨年度の決算額と対比して示してある。大科目に関しては、ガイドラインでの予算額も備考欄に示してある。

○昨年度決算に関する補足

昨年度当初予算額との食い違いが多い科目について以下に補足説明する。

- ・会費収入は正会員増加率の減少、会費納入率の低下、賛助会員会費未納などにより予算額を20万円ほど下回った。
- ・秋季講演会事業収入・雑収入は、立命館大学から参加者1名当たり500円の援助を受けた分である。にもかかわらず秋季講演会の総収入が予算額を下回ったのは参加数（134名）が予想以下だったため。
- ・学会誌出版事業費・印刷製本費については、Vol.5-4からVol.6-4までの5回分を計上したため、4回分のみを算入した予算額を大きく上回った。また、ページ数の増加で印刷費も見積を越えた。一方、送料・運搬費は「遊・星・人」が学術刊行物に指定され2回分が安くなった。
- ・管理費（委託事務関連）はニュースレター送料などが予測を下回ったため予算額より大幅に出費を抑えることができた。
- ・今年度みの収支差額は-249,771円とかなり大きな赤字となった。

○今年度予算に関する補足

- ・会の発足以来、会員増に伴い順調に右肩上がりて推移してきた正会員（一般+学生）会費収入は、昨年度はじめて前年度を下回るマイナス成長となった。1993年度からの推移を表に示した。

	一般+学生	賛助	会費収入合計 (単位：円)
1993年度	1,900,100	850,000	2,750,100
1994年度	2,408,800	1,050,000	3,458,800
1995年度	2,446,400	800,000	3,246,400
1996年度	2,694,900	800,000	3,494,900
1997年度	2,690,800	700,000	3,390,800

少なくとも納入会費で見ると、会の膨張は終わり定常期に入ったと言える。さらに不況の影響か賛助会員に、会費滞納があり、また別に、昨年度いっぱいでの退会の申出も1件（2口）あった。

よって、今年度の会費収入は納入率アップをはかっても若干減と見込まれ、借入金完済で緩みかけた財布の紐を引き締める必要がある。

秋季講演会で示したガイドラインはこうした状況を把握する以前のもので、収入見込みの減少に応じて支出もかなり抑制した。

- ・秋季講演会の予稿集については昨年度程度の販売部数（120部）では、印刷費との釣合から値上げが必要（一冊 1,000円 → 1,500円）と判断、これは秋季講演会事業費を同事業収入+10万円以内に抑えるにも必要と考えた。LOCには参加者

を増やす努力をお願いしたい。

- ・学会誌出版事業費：印刷製本費の抑制のためページ数を抑えることを編集専門委員会に要請する（昨年のNo.3,4は厚すぎ、No.1が上限か）。

今年度は選挙の年、ニュースレター印刷配布で余分に15万円強かかる。さらに名簿を発行する

と版下・印刷製本・郵送などで30万円弱！少なくともスポンサー（名簿に広告を掲載）を見つけないと名簿発刊は困難である。予算案では、とりあえず会員の異動のみ掲載の小冊子を選挙広報とともに送る妥協案で策定した。

◇電子メールニュースレターへの投稿について

電子メールニュースレターの発行は毎月15日前後に編集発行します。ニュースレターに記事を投稿したい方は毎月10日までに電子メールにより原稿を送付して下さい。宛先は、

JSPSNEWS@geo.titech.ac.jp

です。事務局でレイアウトを多少変更するなど簡易編集はしますが、基本的には投稿原稿をそのままの形で掲載されることとなります。

なお、電子メールとしての有効性を守るため、

記事はできるだけ簡潔なものにしていただくようお願いいたします。また、内容によって事務局の判断で掲載不可とさせていただく場合があります。あらかじめご承知おき下さい。また、これまでと同様電子メールニュースレターで流された記事は事務局の判断で学会誌「遊・星・人」に転載することがあります。

（東工大・榎森 啓元）

◇日本惑星科学会入会案内

「日本惑星科学会」は平成4年4月に発足しました。新学会の設立目的は、まず惑星科学それ自体の振興にあります。旧来分野の垣根を取り払い、相互理解や情報交換を積極的に進め、また、異なった手法、異なった対象の研究を集約し総合的な視点にたつて惑星科学を推進することが第一の目的です。また、本格的な惑星探査の時代を迎え、日本の惑星科学界全体として直接、間接に探査計画を支え、さらには将来の探査計画を立案すべく、新学会がその組織化をはかることも重要です。同時に、惑星科学研究の国際的な共同計画に日本の応分の負担と協力が求められている現在、新学会が力量を高め、国際的な窓口としての役割も果たすことになると思われます。更には、惑星科学の成果を社会に還元したり、また、中・高校生など若

い人材を惑星科学に勧誘するための広報活動も新学会の重要な責務です。このような日本惑星科学会設立の主旨にご賛同くださり、今後の惑星科学の発展をともに担う広範な分野の方々の入会をお待ちしています。

入会の方法は下記の通りです。

年会費：

6,000円（但し、学生会員は4,000円）

入会手続：

- 入会申込書（本誌巻末に綴込まれています）にご記入の上、事務局にご送付下さい。
- 運営委員会において入会が認められますと、事務局より入会受理のお手紙を差し上げます。
- その後、(財)日本学会事務センターより年会費請求書が送付されます。請求書に従って年

会費をお振り込み願います。なお、入会受理より年会費請求まで遅延があります（最大2ヶ月程度）が、会員としての権利は入会受理と共に発生します。

事務局

〒152-8551 東京都目黒区大岡山2-12-1
東京工業大学 理学部 地学内5-16-9
TEL: 03-3720-9885; FAX: 03-5734-3538
(財) 日本学会事務センター
〒113 東京都文京区本駒込5-16-9
TEL: 03-5814-5801; FAX: 03-5814-5820

◇学会誌購読申込み

本誌「遊・星・人」は会員外の方でも1号あたり1,750円（含送料）で購読することができます。購読希望の方は、本誌巻末の「学会誌購入申込カード」に所定の事項をご記入の上、事務局にお申し込み下さい。なお、バックナンバーについては創刊号から購読できますが、発行予定のものについ

ては同年内発行のものまで（第1号より第4号まで）となっておりますのでご注意ください。

学会事務局が購読申込書を受け取り次第、請求書（他必要書類）、バックナンバー及び最新刊会誌を送付します。詳細は事務局までお問い合わせ下さい。

◇日本惑星科学会第4期役員名簿

会 長

中澤 清 (東工大・理)

副会長

水谷 仁 (宇宙研)

監 事

松田 准一 (阪大・理)

堀内 千尋 (立命館大・理工)

運営委員・財務専門委員長

渡邊 誠一郎 (名大・理)

運営委員・総務専門委員長

香内 晃 (北大・低温研)

運営委員・編集専門委員長

村江 達士 (九大・理)

運営委員・将来計画専門委員長

山本 哲生 (北大・理)

運営委員

大谷 栄治 (東北大・理)

小林 憲正 (横国大・工)

杉浦 直治 (東大・理)

高木 靖彦 (東邦学園短大)

田近 英一 (東大・理)

土山 明 (阪大・理)

寺沢 敏夫 (東大・理)

林 正彦 (天文台)

藤原 顯 (宇宙研)

福岡 孝昭 (学習院大・理)

松井 孝典 (東大・理)

向井 正 (神戸大・理)

渡部 潤一 (天文台)

運営委員・企画部会長

佐々木 晶 (東大・理)

運営委員・学会連合等部会長

阿部 豊 (東大・理)

運営委員・新欧文誌部会長

井田 茂 (東工大・理)

◇日本惑星科学会賛助会員名簿

1998年5月25日までに、賛助会員として本学会に御協力下さった団体は下記の通りです。社名等を掲載し、敬意と感謝の意を表します(五十音順)

カメカインスツルメンツ(株)

日本電気(株)宇宙開発室

(株)パスコ

(株)日立製作所

三菱重工業(株)

三菱プレジジョン(株)

(財)リモートセンシング技術センター